



写真3 見花谷

(四国災害アーカイブス HP より)



写真4 両見谷

(四国災害アーカイブス HP より)



写真5 風呂屋谷

(四国災害アーカイブス HP より)

次に香川県の代表的な土砂災害に関する防災風土資源の事例を1つ選び、以下に述べる。

## エ) 香川県の代表的な土砂災害に関する防災風土資源の事例

### ① 小豆島土砂災害跡地（昭和51年）（小豆島町）（表5の番号23）

昭和51年(1976)9月の台風17号による集中豪雨は、香川県全域に被害をもたらした。その中でも、小豆島町池田の四方指観測所では9月8日12時から9月13日15時までに1,400mmという1年分に匹敵する降雨量を記録しました。この豪雨により、随所で土砂災害が起こり、小豆島町池田の谷尻地区で24名の死者を出すなど、県内各地で合わせて死者50名にのぼる大災害となった。

四国防災八十八話の82話には、谷尻地区の被災状況や自衛隊の捜索活動状況の写真(写真1、2)とともに、台風17号の時、地区総代として土砂災害を経験した人の証言が次のように掲載されている。



写真1 谷尻地区の被災状況 (香川県提供写真)



写真2 自衛隊の捜索活動状況 (香川県提供写真)

『たたきつけるような豪雨の中で、「土石流が起こった。家がつぶされ、多くの人たちが生き埋めになっているかもしれない」との第一報が入ったのに続いて、土石流災害発生のお知らせが次々に入ってきます。小豆島の全ての沢という沢で土石流が発生してしまったのではという感じさえ受けるほどです。想像も付かない、とんでもない規模の土砂災害が発生したということだけは分かりました。しかし、各種の情報が入り乱れる中、どれだけの人達が犠牲になっているのか正確な人数さえ分かりません。とにかく行方不明者の捜索を急がなければいけません。そこで、陸海自衛隊、県警機動隊、消防団員、その他、地元自治会など各方面に緊急の協力依頼をしました。

行方不明者の捜索は困難を極めました。土石流で流れ出した大量の土砂はドロドロの状態に堆積しています。そのため膝までぬかるんで、歩くのがやつの状況です。それでも一刻も早く全員が発見されることを一心に願いながら一生懸命に捜索に取り組みました。そして、「おうい、最後の一人が見つかったぞ」という声が響いたときには、疲労困憊の中で皆が心から手を合わせました。「見つかって本当に良かった、感慨は一生忘れることができない」と誰とはなしに口をついて出ていました。小豆島は瀬戸内海に浮かぶ風光明媚な島で、壺井栄の小説「二十四の瞳」の舞台となったところとしても有名です。典型的な瀬戸内海気候で豪雨災害の発生など考えられない小豆島で、これだけの規模の土砂災害が起こったことは、30年経った今でも信じられないことです。』と当時の様子や心境を語っている。

また四国の地盤 88 箇所 83 番-3 の中で 谷尻地区の土石流による被災写真（写真 3）や花崗岩風化してできたマサドの写真 4、さらに図 1 の小豆島地域の地質断面図模式図を示し詳しく解説されている。



写真 3 谷尻地区の土石流による被災写真

(出典：四国の地盤 88 箇所 86 番)



写真 4 岩風化してできたマサド

(出典：四国の地盤 88 箇所 86 番)

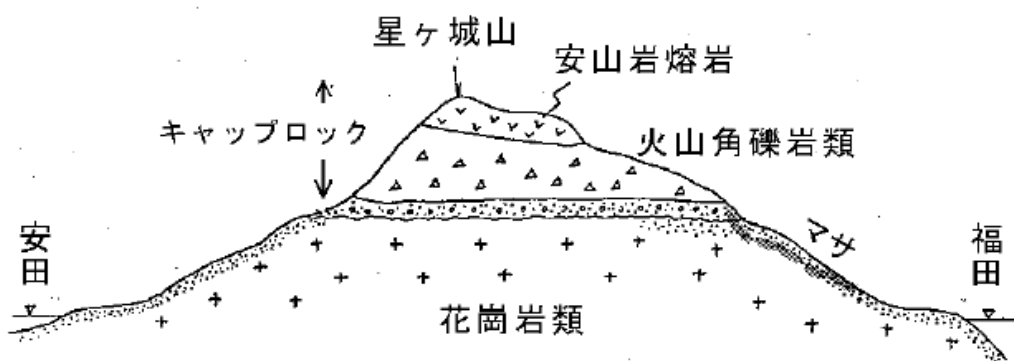


図 1 小豆島地域の地質断面図模式図 (出典：四国の地盤 88 箇所 86 番)

平成 26 年 8 月豪雨による広島市の安佐北区や安佐南区などの住宅地を襲った土砂災害もマサドが関係している。この住民の方の体験談とともに水に弱いマサドの分布も考えさせる土砂災害であった谷尻地区の小豆島災害は、今後の土砂災害対策を考えるうえで参考となる防災風土資源であるといえる。

《得られる知恵・教訓》

住民の方の体験談とともに水に弱いマサドの分布なども一因であった土砂災害であったこと、小豆島災害は、集中豪雨災害など今後の土砂災害対策を考えるうえで参考となることを教えている。